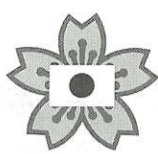


国防は最大の
福祉である

初代会長 故 高橋季義



國の支え

(故中井信夫元大阪府議会議長・95才)

関西防衛を支える会
(略称・関防会)

〒542-0081
大阪市中央区南船場3-11-10
心齋橋太陽ビル7階
TEL 06-6241-1124
発行人 濱野晃吉
編集人 新川貞敏
印刷所 (株)新聞印刷

第39号

(夏季号)

平成21年7月1日(水)
(皇紀2669年)
(大正紀元98年)
(昭和紀元84年)

第12回定時総会開催

さる5月30日(土)ラマダホテルに於いて第12回定時総会を開催。国歌斉唱などの国民儀礼の後、130名の出席者により提出議案は承認された。

130名の出席者は過去最大であり小会の会員が増えている現実を示している。会計報告の質疑応答の中でも、会費収入予定が昨年に比べ増えている事に質問があったが、正にその通りであり弊会の存在意義が認められたのではと分析する。

記念講演は元一等陸佐の荒谷卓氏で演題は「国際情勢と日本の大義」であった。現在明治神宮の武道場・至誠館の専任師範で羽織袴の正装で演台に立つ姿は爽やかであった。

本日は御多用のところ定期総会にご出席頂きまして誠にありがとうございます。本年は一月早々に田母神前航空幕僚長をお迎えして新春特別講演会を開催させて頂きました。皆様のご協力のおかげで多数参加頂き、会場があふれました。また講演もユーモアにあふれた素晴らしいものでした。

登壇するなり「私が危険人物の田母神です。本当はいい人間で人から愛されていますが、私を愛していないのは妻だけです。発言に慎重さが足りないと言われていますが、足りないのは身長です。また四年前に脳腫瘍を患い自衛隊病院で手術をしましたが、自衛隊病院で手術をすると死ぬ、と言われておりますが手術を受けた勇気ある男です。ただ顔がゆがんで金正日も逃げるくらい怖い顔になりましたが、今は大分回復してトム・クルーズに似ていると言われます。日本はドイツ方式で核をもつべきである。日本は何事も決断が遅い、できないと言われますが、私の臆をアツといつまに切りました。やれば出来るのです。」

今、田母神前航空幕僚長

座して平和は守れない

会長 濱野 晃吉



挨拶する濱野会長

我が国は自衛の為の核を持つべき、と日本覚醒のため全国各地で講演して頑張っておられます。内閣はこれを押さえにかかっていますが、田母神ブームは盛り上がる一方です。

先日、北朝鮮は二回目の核実験を行いました。韓国大統領と国防相は北には毅然と対応する、と発表し、北朝鮮の核関連施設を攻撃する計画があることを明らかにしました。

我が国の首相や防衛大臣もしっかりしろ、と言いたい。アメリカはオバマ大統領が就任し、米国の核兵器80

対馬では陸海空の自衛隊を訪問しました。が何と海上自衛隊の両サイドの土地が韓国資本に買収され、海上防衛の要が、その監視下にあり状況です。片方の韓国リゾートホテル内には今上天皇・皇后両陛下の行幸記念碑があり、韓国人所有地になっていることに心が痛みます。この土地を五千万円で買って来てくれと頼まれた防衛省は予算がない、と断ったそうです。

昨年七月韓国の集団が敵原市役所の前で「対馬は韓国領だ」と座り込み暴挙に出たが対馬警察は無力だった。今年七月五日に国境マラソンが開催されるが、ボスターは全部韓国語で書かれており、いかにも対馬は韓国のものである。対馬以外にも沖縄も中国人に買われている。政府が早急に調査し手を打つべきである。

こういう状況は国営放送であるNHKが報道して国防の視点から国民を啓蒙しなければならぬのに、全く逆の放送をしている。好例が4月5日放送の「JAS」

室制度の廃絶を印象付けようとする、恐ろしい事態を招き、巧妙な陰謀が国営放送まで及んでいる状況です。

本日の講師であります荒谷卓先生は、このような謀略戦の専門家であり、自衛隊時代、米、英、ドイツ等の特殊部隊で研修され、日本初の特殊部隊の創設者です。特殊部隊とは「グリーンベラー」のような部隊かと思いましたが、敵を洗脳したり、謀略を用いて味方につけたり、壊滅させたりする部隊だそうであり、荒谷先生から本日は貴重なお話を伺えるので、楽しみにしてください。

本会は歴史勉強会・中島サロンを二カ月に一回開催しています。皆さまのご協力で益々盛会になって来ています。皆様のお陰をもちまして本会の活動が自衛隊はもとより、各団体からも高い評価を頂いており、今後とも何卒ご協力、ご尽力賜りますようお願い申し上げます。

目次

- 国際情勢と日本の大義 2~3面
- 元一等陸佐 荒谷 卓
- 日本が遂行した戦争とは 4~5面
- 元東大教授 西部 邁
- 国境の島・対馬研修旅行記 6~7面
- 哀悼の辞………会長 濱野 晃吉
- 辺要の地「対馬」は今も変わらず
- 対馬防衛協会事務局長 小松津代志
- 国防に執念を
- 妙見宗住職 小西 正純
- 対馬を旅して
- 吹田市議会議員 神谷 宗幣

トルコ軍艦「エルトゥールル号」 遭難慰霊碑鎮魂のご案内

期 日 9月12日(土)から13日(日)
費用 25,000円(観光バス・ホテル代など)
内容 海上自衛隊紀伊由良基地見学
航空自衛隊串本基地見学
串本町の遭難慰霊碑献花
主催 関西防衛を支える会
申込 8月5日(水)まで(定員50名)
住所、氏名、電話番号を記入・下記FAXへ
FAX 06-4302-5187へ

関防会歴史勉強会 中島サロンの御案内

- 第20回 8月22日(土)午後4時開会
講師 岸谷 宏氏(防衛大学11期)
昭和38年 大阪府立三国ヶ丘高校卒
昭和42年 防衛大学航空工学科卒
戦闘機パイロットとして勤務(飛行約4000時間)
東チモール避難民空輸隊長(指揮官)等歴任
演題 私の戦闘機人生
会費 4,000円(含む飲食代)
会場 錦城閣(中国料理)、電話06-6941-2185、地下鉄谷町線、京阪電車天満橋駅下車直上のキャッスルホテル3F
会員以外の方の御出席も大歓迎御希望の方は、下記へFAXで氏名・住所をお願いします
FAX 06-4302-5187又は090-8160-0521(新川まで)
- 第21回 10月10日(土)午後4時開会
講師 河原 達氏
昭和15年 鳥取県生まれ、一橋大学卒、三井物産入社象牙海岸などフランス語圏で約30年間商社マンとして活躍。その功績によりフランス政府よりナポレオン以来の名誉ある「農事功労賞シュバリエ(騎士号)」を平成9年1月に受賞
演題 知られざる国・フランス 日仏交流150年

第12回定時総会 特別講演会



明治神宮武道場「至誠館」
専任師範

荒谷 卓氏

がいました。この女性
は、憲法改正チームの
全体を統轄する運営委
員会の一員で、ケーテ
イス大佐の秘書的な存
在でした。この女性が
書き残した日誌には
「日本の歴史を書き換
えるのだ」という名状し
難いほどの情熱に取り
付かれた」とあります。
つまり、日本の歴史
と伝統を否定し、米国
厳密に言えば、このス
タッフの価値観で日本
を革命することが憲法
起草の原動力となっていたわけ
です。

時代認識と「日本の大義」

本日の講演について濱野会長より、依頼を受けたのは昨年の秋でした。その時、私の頭に浮かんだのが「日本の大義はいかにあるべきか」というテーマでした。

幕末の思想家で熊本藩士であった横井小南は、欧米列強によって開国を強要され、国全体が大きく動揺していた時期に「単に、富国強兵を目指して欧米と対等に付き合うというのではなく、我が国の大義を世界に広めるために開国するのだ」と論じました。私は、現在は世界史の大転換期だという認識を持っています。

「この時期こそ、日本は志を立てて『日本の大義』というものを世界に示すべきだと考えておられます。しかし『日本の大義』を世界に示すとするならば、『日本の歴史認識』というものが確固たるものとなっていない限りはなりません。歴史認識とは、単に考古学的事実検証ではなく、国家、民族がどのような価値観で過去と現在を評価し未来を築くかという、社会の価値基準だからです。

「大義」を喪失した日本

戦後の日本は、占領軍の政策により、国柄を根本的に変えられました。「国体」を英訳すると「コンスティテューション」です。つまり「憲法」です。

現行の日本国憲法は、GHQの民政局につくられた、ケーティス大佐以下二十一人のスタッフにより、僅か一週間で作成されました。スタッフの一人にルース・エラマンという女性

それは、戦後教育によって日本人の記憶から抹消された日本の歴史を学び、日本人が過去において何をもちて社会正義としたかについて一つ一つ洗い出すことからはじめなくてはなりません。そして、それらを現状に即して再構築し、日本人が考える将来の理想的な社会として提案し実行していくことです。

「日本の大義」と言っても、決してナショナリズムイックに、狭い見で論じるのではなく、外国人に対しても共感を得ることが出来る将来の理想社会のビジョンとして提案し説得することが我々の課題であると考えます。

国際情勢に関する認識

私が本日の講演を引き受けた昨年の秋は、米国の金融危機が世界中に波及しつつある時期でした。この世界規模での金融危機、経済危機は、グローバル資本主義が進展すれば、当然予想できるシナリオです。グローバル化は、少数の人物にマネーや資産が集中し多くの貧困層が生じることを容認します。

米国のテロとの戦いの情勢認識では、「相互依存の経済は、失敗のリスクが大多数の者にもたせられる間に、富の恩恵が少数の者に集中され続ける。二〇一五年には、二十八億人の人々が貧窮以下の生活レベルにある」と分析しています。

これらの貧困層は、「何もせずに死ぬのであるならば、戦って死にたい」と考えるでしょう。その一部は欧米社会を破壊して死にたい、と考えるかもしれません。これが現在のテロリズムの特徴です。

米国の対テロ戦争は、これを抑制・排除し、さらにグローバル化を進展するという政治要求によって遂行されています。

資本主義と民主主義の相克

世界で最も多くの資産を有する一人であるジョージ・ソロスが一九九九年に書いた「グローバル資本主義の危機」という本があります。

この本の中で、ソロスは次のようなことを述べています。「資本主義と民主主義はその目的、計算単位、奉仕する対象が異なる。近代的な市場経済であるグローバル化は、マネーの価値を最大にするための資本主義であり、その目的は個人のマネーをいかに増やすかということである。」

グローバル経済に巻き込まれた国家というものは、コスト削減のために社会保障制度、雇用対策等の国民福祉を低下させ、資本の税金を減らさなくてはならない。政府が国家予算を維持するためには、消費の税金を増やす必要がある。」

日本だと、さらに、経済活動の主たるプレイヤーである企業の収益を増大させるために法人税を下げることになる。また、徴税機能としてのサブプライヤーに過ぎない地方公共団体の権限を縮小して中央政府の権限や支配力を強化する方向へと進む。つまり、我が国においても富の格差はどんどん広がるということになります。

ソロスはさらに「資本主義が、『共産党宣言』で指摘した悲惨な状態にならなかつたのは、公共の利益を重視する民主主義によって阻止されたのだ」とも言っています。ソロスが指摘しているように、グローバル市場には資本主義は存在しても、民主主義は存在しないのです。

グローバル資本主義はマルクスの予言を忠実に実現しているかのように見えます。

近代社会思想の問題
世界の金融危機を産み、人々の富の格差を急速に進展する資本主義の大義は「自由」であります。これは、近代国家の基盤となる社会思想が、人間個人の権利は「創造主」から与えられた絶対不可侵の権利として定義したことに由来します。

イギリスの名譽革命を思想的に支えたジョン・ロックの社会契約説によれば、「人間はすべて、ただ一人の全知全能なる創造主の作品であり、自然状態において、生命、自由、財産の所有の権利を与えられた」ということになりました。だから、この権利すなわち自然権を行使することは正しいとする彼の



「国際情勢と日本の大義」
明治神宮武道場「至誠館」
専任師範 荒谷 卓氏

解釈であります。こつた考えを、啓蒙という思想教育により世界中に普及させることになりました。米国の独立宣言の中にも「人間は、創造主によって生存、自由をして幸福追求を含む優すべからざる権利を与えられている」としてロックの思想が生かされています。これは、米建国の核的的思想であり、現在「自由」の名の下、稼げるだけ稼ぐべしとを正当化し、世界中で富の格差を加速度的に進行させているグローバル資本主義の大義でもあるのです。

この思想が、わが国の憲法の中で、同様に社会正義として規定されました。すなわち、「主権が国民に存することを宣言し、この憲法を確定する。(国政の)権威は国民に由来し、福利は国民が享受する。これは人類普通の原理であり、この憲法は、かかる原理に基づくものである。生命、自由および幸福追求に対する国民の権利については、公共の福祉に反しない限り、最大の尊重を必要とする(13条)」に象徴的に現れています。

これによって、『公共の利益に奉仕すること正し』としてきた日本人の価値観が、『個人の利益追求こそ正しい』という米英の価値観に変更されたのです。

ロックは、「われわれ(人間)が同じ性質のものである以上、自分自身のために欲し得る最大の幸を、何人の手からも奪い取ることは望まない。(理性の声)として、人間は自己の利益を最優先するが公共心も同時に持ち合わせているとしました。しかし、それは、ロックが否定した旧社会において、宗教による人間の道徳教育が慣習化されていたからであって、ロック自身が提供した契約社会では、人間の自然権が強調され教育されることで、結果としてロックが人間の良心として認めた『理性の声』を自らの思想と啓蒙によって破壊したのです。

また、グローバル化が進展し、地球資源が希少化してきた現在、自然権を手にした人間を自然状態に放置しておけば、明らかにホッブズが言う「万人の万人に対する戦い」に陥るのです。それを社会契約により規制しているのは国家だけではありません。グローバル市場は、まさにホッブズが言う強い者だけが生き残る自然状態なのです。

国際情勢と日本の大義

日本の神道

繰り返しになりますが、「自由」を大義として、国境を越えた金融・経済活動で個人がマネーを追求することを是とする価値観は根本的に見直すべきです。我々は、「自由」を絶対不可侵の大義とする見方を疑ってかからなくてはなりません。

では、「神は、人間に権利を与えた」とする思想に変わる思想とは何かと、このことについてお話しします。

私は武道家ですから、海外での「武道セミナー」を開催します。その会場には、日本の武道場と同様に神棚を設けます。そしてその土地の常緑樹の葉を飾り、土地の神様として参加者の信仰する神々をまつり、禊祓を行います。

すると、「我々の信じる神は、他の神は認めない」との意見を聞くことが有ります。

これに対して、「日本では、神々が争うとは考えない。神々は秩序であり、秩序の中にあるのが神々である。現に宇宙と自然は一つの秩序にある。別の宇宙や別の自然はないのだから、神々は争っていないのだ。神々が争わないのだから、人間も争う必要はないのである。そう考えたほうがいいのではないか。」と云えます。そして、「日本の神話では、木霊も風も草木も人も全てのものが神の産土の系列で生まれ、現在も未来にも続く。したがって、自然界で人間だけが特別な権利を持ち、人間個人の利欲を正当化するという発想は持ち得ない。」と。

さらに「我々は全員、神々の子孫であり、神の心を受け継ぐ神聖を持っている。それを自覚するため禊祓をする。その上で、この神聖なる魂を貫くため人生を全うする。それによって死の危険に遭遇しても心を貫き通す。そうした生き方が武士道である」とも説明します。今まで、武道セミナーの参加者がこうした考えに賛同をしてくれました。

つまり、「神が人間に与えたのは権利ではなく、神の神聖な心である」と。そして、人間はそれを自覚し、その心に従って生きるべきだと。

真の武士道は世界に通じる

武士道に関して、私は、外国人に後醍醐天皇に忠誠を尽くした楠木正成の話をします。

楠木正成は、皆様よくご存知のように、数十万の敵を相手にしても屈することなく、数ヶ月に亘って千早城を守り、最後に僅かの手勢を率いて決戦を挑み、七生報国を誓って自刃した有名な武将です。ある時、この話を聞いたギリシャの武道家が、レオニダス王が率いたスパルタの戦士の戦いぶりについてこう話しました。

「百万とも十万人ともいわれるペルシャの軍勢を相手に、僅か三百人のスパルタ軍は降伏することなく四日間の壮絶な戦いを挑んで全滅した。この時のス



を誇るローマ軍と勇敢に戦ったゲルマンの戦士も、民族の価値観を守り通すため自己を棄てるという崇高なる精神を持って戦ったのではないかしら、そうした民族精神は失われませんでした。」と語ってくれました。

欧州では、キリスト教の布教と近代社会思想によって、各民族が伝えてきた知恵と精神は歴史から葬り去られていくのです。

また、戦い方において、彼らが日本の武道に共感を示すのは、ただ単に相手を殺傷することを目的として、武術を鍛錬しているのではないということ。

武道の究極の姿として「相手をしつて包容化する」という考え方があります。どういふことかといえば、相手を武力で倒して殺傷するのではなく、相手の「邪気」を清めたい、正気を取り戻した相手を仲間とみなし共存共栄を図るといふものです。

國譲り神話の中の、建御雷之神の戦い方、そして戦いで負けた建御名方之神を諏訪大社に祭って和平を図ったという話に象徴されます。



左から村川阪基司令、井上空幹学校長、中川中方幕僚長

スパルタの戦いの臨む精神は、スパルタのために自己を犠牲にしても何の悔いも無い、という厳しくも崇高なるエトスであった。しかし、残念ながらスパルタの戦士が、この精神をいかに養成したかの手がかりが失われてしまった。私は、日本の武士道の中にその精神と鍛錬の方法を見出せるように思う」と。

さらに、あるドイツ人は「その昔、圧倒的な勢力



左より木挽 司、大前繁雄、西村真悟の各代議士

たという話に象徴されます。武道における勝負は、勝ち負けではなく、公共の大義を立て、平和共存の道を開くという発想です。

グローバリズムを超える価値

米国の心理学者マズローは「もともと人間というのは、より高次の公的・社会的な目的のために尽くそうとするものなのだ」と仰っています。彼は、人間の基

講師略歴
昭和34年秋田県生まれ、東京理科大学卒、昭和58年陸上自衛隊入隊、第39普通科連隊中隊長、第一空挺団新編部隊準備隊長(習志野)。
米国・独国等で特殊部隊研修後、本邦初の特殊部隊創設に参画・初代特殊作戦群長に就任(習志野)。
防衛庁防衛局防衛政策課、研究本部総合研究部第三室長
ドイツ連邦軍指揮大学留学、米国特殊作戦センター留学。
平成20年退官、明治神宮奉職、神宮の武道館・至誠館師範
鹿島神流、合気道、空手など各種戦闘格闘技専門家。

「人類理想の社会を構築するため、天(公共)の大義を掲げ、罪・穢れから護る」使命を自覚し、日本人として自信を持って活躍できる人間作りをしましよ。この価値観が人々の心の中にしっかりと根を張るまで、辛抱強く活動することが重要であると考えます。

このように精神価値を我々は日本の歴史の中に見出すことが出来るのです。そして、それは単なる理論ではなく、現実に社会規範として実用されてきたという経験があるのです。

これをこそ、日本人の伝統・文化と世界に強調しなくてもいいのですが、少なくとも日本人は、世界を救える可能性を自らのDNAに有していることを自覚し、世界のためにこれを役立てようとしてもらいたい。

英霊感謝祭

大阪護国神社では左記の日に戦没者慰霊祭を催します。日時、場所、参加費、お申し込みのしやす方

日時 8月15日(日) 午後5時～7時

場所 大阪護国神社 大阪府大阪市東区大田1-13-1

参加費 無料

お申し込み 電話 06-6681-1372

陸上自衛隊八尾駐屯地 納涼花火大会

期 日 8月6日(木) 午後6時から

場 所 大阪府八尾市 空港1-81

電 話 0729-49-5131 (広報室)

詳細は上記広報室へお問い合わせ下さい。

陸上自衛隊千僧駐屯地 納涼大会のご案内

期 日 8月11日～12日 午後6時から

場 所 兵庫県伊丹市 広畑1-1

電 話 072-781-0021 (広報室)

詳細は上記広報室へお問い合わせ下さい。

陸上自衛隊伊丹駐屯地 納涼大会のご案内

期 日 8月6日(木) 午後6時から

場 所 兵庫県伊丹市 緑ヶ丘7-1-1

電 話 072-782-0001 (広報室)

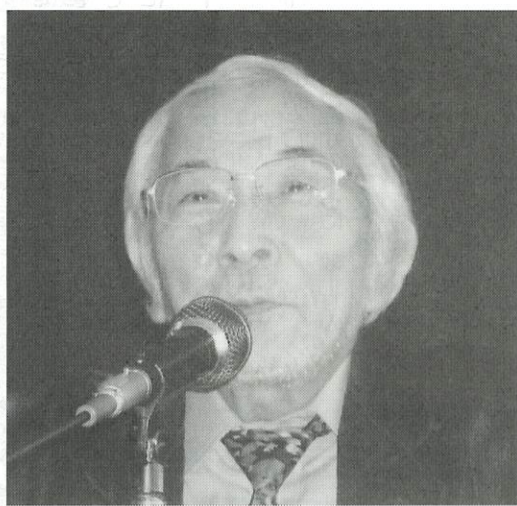
詳細は上記広報室へお問い合わせ下さい。

中島サロン

第18回

4月11日

関防会 歴史勉強会



講演中の西部氏

西部 邁氏

本日は「関西防衛を支える会」の講演会に講師としてお招きいただき有難うございます。

最初に自己紹介しておきます。私は今や、共産主義には反対どころか全く関心がありませんが、かつて、学生運動にのめり込んで警察につかまり、刑務所にいたことがあります。

政治犯の裁判は、かなり時間が掛かりましたが、結局実刑なしの執行猶予付きの有罪ということになりました。刑務所を出ても定職がありませんから、最初はパチンコで食いつなぎました。

金学連の東大委員長であり、有罪になった男を受け入れてくれる会社もなく、仕方なく大学に残っておりました。といっても、ほとんどはバイトに明け暮れていました。

ただ、時間がありましたので勉強は出来ました。論文も少々書きまして、大学に教師として採用されることになりました。

四九歳まで大学におりましたが、自立を考えて、世間からは蛇蝎の如く嫌われ、軽く扱われている評論家という職業に就くことになりました。そんな人間にすぎません。

一等国として主張すべし

先日、貴会の新川氏からいただいた貴会機関紙「国の支え」に掲載された田母神論文への称賛を拝見しました。

私から言わせたら、この程度の論文が反左翼の人々から「すばらしい内容の論文だ」として歓迎され、また称賛されているとしたら、反左翼の人々の認識



等国となった国です。

これらの国々は武力を背景に海外へ出て行って略奪をほしにまわりました。国家として公然と、組織的に押し込み強盗をやったと言われても致し方ありません。

その住民を騙したり脅したりして財産を奪う。言うことを聞かない、あるいは抵抗する現地人は殺す、あるいは奴隷として売り払うというところは、当時としては「正しい行い」だったわけですね。

このような歴史認識からすれば、もし田母神氏のように「日本は侵略国家ではなかった」と言ったら、「なんだ、日本はそんな弱い国だったのか。一等国ではなかったのか」と言いたくなります。

もし、反左翼、あるいは保守を標榜している方々が「日本は侵略国家ではない」と主張したいとするならば、程度の低い話ではないかと思えてしまいます。

田母神論文は「日本だけが侵略国家だと言われる筋合いはない」とも言っております。つまり「他の国だってやっただじゃないか」と言っているわけですが、この言い方は、私からすれば、まことに情けない。自衛隊の最高幹部、昔なら大将の位にある人物が「他の国もやっただじゃないか」と主張するのは、どうも自立自尊の構えが足りない。

日本は、江戸時代末期、武力を背景としたペルーの圧力に負けて開国しました。そして、独立を維持するため、つまり欧州列強の植民地にならないために幕府を倒して明治維新を断行し、兵力を強くして先進諸国と同じようにやるしか選択肢はなかった。

自立した独立国としてやっていくためにおこなった「侵略」は、当時の「一等国」としては、なんら恥ずかしいことではなかった、と堂々と主張すべきであると考えます。

田母神論文では、「日本は侵略したのではなくて、コミンテルンの謀略によって戦争に引きずりこまれた被害者だ」とも言っています。

では、大東亜戦争は国際共産主義との戦いだったのでしょうか。もし、反共を掲げるならば、ソ連を相手に闘うべきで、南方へ進出するのではなくて「北進」すべきだったはずですね。

でも結果は「北進」ではなくて「南進」したわけです。なぜかと言えれば、自由民主主義という奇麗ごとを並べつつも、その裏、武力で侵略して世界の資源

源を独占しようとしていたアングロサクソンの帝國主義国家である米・英に一矢報いるために挑戦をたたきつけたというのが大方の歴史認識でしょう。

たしかにコミンテルンが放ったスパイによる多くの工作によって日本が影響を受けたことはありますが、そんなことはあくまでも副次的なことですね。

ですから、「コミンテルンの工作の被害者」というなら、言葉は悪いけれども「反共バラナイヤの陰謀説」のようではないかとかかわられても仕方ないと思えます。

このように田母神氏の主張をすばらしいものとして称賛する反共、反左翼陣営は、本当に物事を真面目に考えているのか、と言いたくなります。

また、さらに田母神論文を読んでいくと「日米関係は親子関係である」(原文は「日米関係は必要時に助け合う良好な親子関係のようなものであるが望ましい」となっている)と書いてある。

たしかに戦後の日本は米国に庇護されながら経済復興に力を注いで経済大国になった。しかし、私個人としては、米国から、ああせい、こうせいと指図されることには非常なる屈辱感を抱きながら生きてきました。

ですから、米国に擦り寄る日本人という存在には強い嫌悪感を抱いています。米国に対して腰砕けの精神は根拠的に軽蔑しています。この精神は子供の頃から変わりません。

この米国に対する屈辱感をどのように晴らすかという場合、さらには米国に迎合する日本人に対する嫌悪感を示す方法としては反米愛国を叫ぶのもいいけれど、私の場合は学生運動を通じて暴れ回るといった愚かな選択をしたわけです。何も共産主義を是認したわけではないですが、よくも考えずに学生運動で「反戦後」を表現したということですね。

自衛隊が米軍と協調して日本の防衛に当たるといえば聞かぬはいいが、その実態はまるで親子関係だといつことば理解していません。

しかし、自衛隊の最高指揮官が「米軍と自衛隊の関係は実質的に親子関係だから、日米関係は親子関係だ」と言うのは、国家の自主性と独立を保持することが最大の目的である軍隊の最高幹部としての意識が低いのではないかと。

自衛隊の最高幹部が「日米関係は親子関係」と言い、それを反左翼の皆さんがもし称賛するとするならば、どうも苦笑するしかない。

なお、まっとうな親子関係というのであれば、子供は成長して親から自立しなければならぬ。そして衰えた親の面倒を見ようというのが自然の摂理というものです。ただ、私は米国の面倒を見るなどお断りです。

田母神論文の評価できる点

本日の講演は田母神論文を批判するのが目的ではありません。むしろ、評価したいとも考えています。戦後六十年以上経過しても左翼と呼ばれる反日勢力は、バカの一つ覚えのように「日本は侵略国家だった悪い国です。御免なさい」と言い続けてきたことに対するアンチテーゼとして「日本だけが侵略国家だったわけではない」と声を大にして国民に覚醒を促した意味は大きいと思つた。

ただ、自衛隊の最高幹部として発言するならば、もっと堂々と、腹の底から頷けるような物言いをしてくれないと拍手をしようという気にはなれない、と言いたいです。

最近の日本は、戦後GHQによって奪われた自信と誇りを少しずつ取り戻しつつあるし、左翼陣営は蜘蛛の子を散らすように存在感を失いつつある。

このような今の日本で、反左翼の人々が堂々と意見を発表する環境が整いつつあるというのに、田母神論文を金科玉条のごとく言い立てるのは屈辱感を感じるくらいだと言っているのではないかと。

大東亜戦争の総括

私は、右翼でも左翼でもありませんが、大東亜戦争を次々に総括できると考えています。

日本は独立を守るために西欧列強に追いつく必要があった。「富国強兵」を掲げて近代化へ邁進し、日清・日露戦争で勝利を収めて初めて「一等国」として認められるようになった。

しかし、世界中の工業資源はアングロサクソンなどによって抑えられている。米国は太平洋を越えてアジアでの利権、分け前を要求して日本の利益と衝突した。

資源の乏しい我が国が生かすために欧米列強の包囲網を打破することは何としてもやらねばならないことだった。戦争はまさに「自存自衛」のための戦争だったと言つてよい。

ただ、私は半島人や中国人の肩を持つつもりは全くありませんが、朝鮮半島、中国から見たら「侵略はなかった」と言い切ることは極めて困難だと思えます。

前にも言いましたように、当時は「侵略も出来ないような国は一流国ではない」というのが世界の常識だったわけですね。

欧米列強から「日本は「一等国だ」と認識され、かつ世界の「一等国」としての発言力を求めるならば、それ相応の力を持ち、そして利益を維持拡大するためには武力行使も辞さない強さを持つことは政治的には悪いことではなかった。法律的にも容認されていた。

「一等国ならどうすることが当たり前だったのです。はつきり申し上げれば「侵略は悪ではない」

田母神論文の批判は、自由民主主義という奇麗ごとを並べつつも、その裏、武力で侵略して世界の資源

「パール判事」の真実と歴史

というのが当時のグローバリストだ。我が国は「外国の侵略を跳ね返すだけの智慧と力」を持つことで一等国になれたわけだ。

ですから朝鮮半島人や中国人から「日本がやったことは侵略だ」と言われれば、「そのように言われても仕方がない部分があった」と答えるしかないわけだ。侵略の定義を言え、「自分の方から武力を発動し、進出させること」ですから、海外で覇権的な意図の下で武力行使することは「侵略」です。

日本は半島や中国大陸で武力を覇権的な姿勢で発動させた部分があったことは事実ですから、事実上事実として素直に認めなければいけません。だからといって、卑屈になる必要は全くありません。卑屈にならないどころか、堂々と「我が国は世界の一等国だ」と一等国なら武力行使しても自らの意思を貫くのが世界の常識だ。日本は何も臆することはないと、言っているべきです。

半島人や中国人は、日本がいくら謝罪しても、またいくら金を払おうとも「日本から侵略された」と言いつつのであることは百も承知です。

それを帳消しにするために「日本は侵略していません」とか「他の国もやっています」とか「日本だけではありません」と言ったりすれば、私は反左翼の人々と手を繋ぐという気にはなりません。

私は、日本の行いが全て正しかったと言っているわけではありません。半程度しか肯定できないかもしれないとも思っています。

しかしながら、当時の世界的情勢を仔細に眺めれば、日本人が示した壮大な構想力、生き抜くこととした強靱な意志、すばらしい敢闘精神は決して間違いはなかった。むしろ普通のことを受け止められていたはずだ。

先の大東亜戦争は、侵略戦争だったのか、あるいは自存自衛のための戦争だったのか、白黒つけるという自体がおかしい。

明治維新以来、昭和二十年の終戦まで我が国はいくつかの戦争を経験してきました。あるときは純粋に自存自衛のための戦いであつた、また逆に、ある局面は侵略を目的とした戦いだったこともあるわけだ。「侵略か自存自衛か」と議論することに如何ほどの意味があるのか。私は無いと思えます。

靖国の英霊とは

靖国神社に祀られている軍人軍属を我々は「英霊」と呼びます。「英霊」とは読んで字の如く、「秀でた魂」という意味です。つまり、国家のために「名誉ある戦死」をした人々を指す言葉です。

自存自衛の戦争のために戦死したなら「名誉ある戦死」であり、侵略戦争のために死んだ場合は「名誉ある戦死」ではないという議論もおかしい。

なぜなら、既に申し上げたように、当時の国際的な常識では「一等国なら侵略するだけの強さと備え

を持つのが当たり前」だったからです。

遺族の中には、「わが夫や息子が命を掛けて戦った戦争が侵略戦争だったといわれればいい気持ちがない」と思う方もいるでしょう。そのように思いたい気持ちは理解できますが、何回も言いますが、当時の国際常識は「侵略は悪ではない」というものでしたから、たとえ半島人や中国人が「日本は侵略した」と叫んでも、靖国の英霊は全員が「名誉ある戦死」をしたのだと言いつつ出て来ます。

東京裁判史観とパール判決史観

そもそも戦後、占領軍が行なった「極東国際軍事裁判」(以下東京裁判)は、法律的な意味は全くなく、勝者が敗者を裁くというか、復讐のための見せしめです。

米国の主力とする連合国側でも少なくない戦死者が出ています。その遺族の悔しさを日本に対して復讐したいという感情を、GHQが代役として果たしたといつてもいいでしょう。

つまりこの裁判が始まった当初から分かっていました。

ところが、この「東京裁判」の法的な意味はどうかについて調べて議論する人がいますが、法的に何の意味も無い裁判を法的に検討してみても無駄なだけです。

戦後日本では、左翼陣営は「東京裁判は正当なる裁判である。日本軍の行いは侵略であり、悪である。東条英機などが死刑になったのは当然だ」と主張した。

一方、インドのパール判事は、「日本は無罪だ。東京裁判は無効だ」と主張する判決文を書きました。このパール判事の意見を偉大な考えだとする「パール判決史観」が反左翼の陣営で強く支持されています。

でも、私にとって左翼の「東京裁判史観」と反左翼の「パール判決史観」の対比は驚いたものはない。パール判決を仔細に読んでみると、至る所に日本批判が書いてあります。満州建国についても厳しく批判しています。満州建国は欧米列強の真似であり、日本軍部が日本の利益のためにアジアに攻め込んだものだと言っています。

パール判決の結論は「連合国に日本を裁く権利は無い。この裁判は法的根拠が無いので、日本は無罪である」という一点にあります。

決して日本を弁護するための判決書ではないというのが私の見方です。

パール判決書を充分読みもしないで「パール判決は日本の行為を是認したものだ」として、いわゆる「東京裁判史観」と対決するというのは余りにも単純すぎる。

インド人のパール判事が書いた「判決書」をもって保守派の人々が自分たちの正当性の根拠にするというには納得できない。

いいですか、パール判事は日本について全面的に是認しているどころか、日本がやったことは列強の真似であり、帝国主義だった、失敗だったと厳しく批判しています。その「パール判決」にすぎない。

戦後日本人の米国観

戦後の日本政治は、東西冷戦が始まったことから、米国の価値観を同じとする自由主義陣営、すなわち自民党を中心とする保守陣営とソ連を盟主とする社会主義陣営、つまりは社会党に代表される左派陣営が鋭く対立しました。

しかし、実態は、右も左も米国をモデルとしました。右の陣営は、自由主義経済の思想を米国から取り入れよと懸命だった、左の陣営も米国の「まぶしいばかりの民主主義」や「機会均等な豊かな社会」に憧れを抱きました。

自民党も社会党も米国に寄り寄り、依存しようとした。日本人としての誇りや主体性、自立心などはどこかに忘れてしまった。

ひたすら米国をモデルとして戦後復興した日本人は、いまだに自分の価値観を創出できていない。

具体的な例を言えば、二〇〇一年の九・一一同時多発テロの後、米国がイラクに攻め込んだ「対テロ戦争」に協力する形でイラクへ自衛隊を派遣した小泉政権の対米政策に左の陣営も右の陣営も全く反対する姿勢を示さなかった。

国連を巻き込んだ「イラクの大量破壊兵器は国際社会の脅威だ」という一大キャンペーンを展開した米国の方針について何の批判も加えずに盲目的に追従したのは、なにも保守派米派ばかりではなかった。保守派の「産経新聞」から左翼の「朝日新聞」まで米国のイラク「侵略」を肯定した。少なくとも大きな疑問を呈したという事は無かった。

国連がイラクに派遣した調査団がイラク国内をくまなく探しても大量破壊兵器は見つからなかった。国連の調査団は、数回も「イラクでは大量破壊兵器は見つからなかった」と国連安保理に報告したにもかかわらず、米政府は「イラクの大量破壊兵器を排除するためにはイラクに攻め入ってフセイン政権を倒さねばならない」という主張を変えなかった。

この米国が主張する「正当性」についてドイツとフランスは「どうもあやしい」と読んで協力を避け



米国の全面的に協力した英国のブレア首相ですら「米国の主張を鵜呑みにして協力したことは英国の恥であった」という反省の弁を述べている。

米国のブッシュ大統領でさえ「あの戦争(対イラク戦争)は間違っていた」との発言をしているというのに、当時の日本総理だった小泉純一郎は反省する気配すら見せないし、自衛隊派遣を進めた経団連に代表される経済界、それにマスコミ全てが「当時の情勢判断は間違いなかった」とは言わない。こんな日本は、言論の部分で言うなら、米国以下の国だといえないと思います。

国際社会は情勢判断を間違った

イラクの問題でさらに言えば、「イラクの首都バグダッドは国際テロリズムの根拠地だ」という言説は明らかな間違いでした。

なぜなら、イラクの政権を担当していたのは「バース党」という世俗的な社会主義政党であり、イスラム原理主義とは一線を画する別物であるからです。社会主義政党でありますから、宗教とははっきりと距離をおこうとする、つまりイスラム原理主義とはかけ離れた存在です。

米国の中枢部を飛行機テロによって破壊した犯人たちはイスラム原理主義という精神的怪物の虜になつていました。犯人たちはイスラム教の教えに従って近代社会を破壊しようとしたテロリストです。

そのようなテロリストと「バース党」が手を組むことは、理論的に常識を動かせば「ありえない」と分かります。このことを主張した日本人は私一人でした。おかげで、いろんな方面からバッシングを受けました。

当時、ある出版関係者から「日本の言論界では、西部を近づけるとヤバイ」という空気が流れている」と告げられました。

明らかに「侵略戦争」であった米国の対イラク戦争に異を唱えただけで、左翼といわず反左翼も臆病風吹かれたのか、「西部はヤバイ」と言い出したのは唯だりました。

左翼も反左翼も米国の対イラク政策にたいして無批判に追従していった当時の日本のあり方は、どう考えてもおかしいというのが私の考えです。

もっとおかしなと思えるのは、イラク戦争が終わって改めたイラク国内を調査したにもかかわらず、大量破壊兵器の痕跡は無い、イスラム原理主義テロの根拠地だった証拠も上がってこなかった。これに対して、米政府は「イラクの民主化を図るのが米国の役割だ」「イラク民主化は日本を占領したGHQ方式でやりたい」と言い出したことだ。

米国にとって最も「大義のある戦争」は第二次世界大戦だった。特に対日戦争は「日本の軍国主義を破壊し、日本を平和な民主国家とする」という美辞麗句によって遂行された。そして、戦後日本を占領支配したGHQは、見事なほど日本を「民主化」し、「平和国家に改造」することに成功した。これほど劇的に成功した例は世界史上ないでしょう。

しかし、やられた日本人までが「アメリカのお陰で民主化でき、平和国家となれました」と言っていて、米国を称賛するとはどういふ見方でしょう。左翼はかりでなく反左翼でも同じような発言するようでは「この日本には真の日本人はいなくなった」と慨嘆したくなります。

私に言わせれば、「せめて千人に一人でも、いや一人に一人でも良い、何の大義名分も無い対イラク戦争に対して『この戦争はおかしい』と発言する気概、あるいは勇気や自立心を持った日本人がいて欲しかった」といっています。

(文責・山本)

講師略歴

元東京大学教授
昭和14年北海道生まれ
『大衆への反逆』『無念の戦後史』『思想の英雄たち』など著書約百冊



日本海海戦記念碑前にて

国防の最前線 対馬 研修旅行

4月25日・26日



表白を奉読する小西和尙



英霊に哀悼の辞を述べる演野会長

英霊に捧ぐ 哀悼の辞

会長 演野 晃吉

本日、此地、対馬において、皇・尚武の坂東武者を統帥した「北条時宗」が「名こそ惜しけれ」をかかて、関西防衛を支える会を代表し、謹んで慰霊申し上げます。

鎌倉時代の文永11年(1281)10月、元の大軍約3万の兵が艦船900余隻に分乗して、この対馬を襲いました。時の守護代「宋資国」は80余騎の兵と共に奮戦し一家全滅しました。この「玉碎」が当時の御家人を振るい起こさせ、「尊皇・尚武」の坂東武者を統帥した「北条時宗」が「名こそ惜しけれ」をかかて、関西防衛を支える会を代表し、謹んで慰霊申し上げます。

宋資国氏の玉碎から630年後の明治37年10月15日、ロシアのバルチック艦隊の38隻は12000の将兵を乗せてバルチック海の対馬沖海戦(日本海海戦)の火蓋が切られました。東郷平八郎司令官が指揮する

大日本帝国海軍の砲撃は「百発百中」でバルチック艦隊を完膚無きまでに潰滅させたのであります。ロシア降伏後、東郷長官は重症を負ったロジェストヴェン

だ」と静かに語られ、ロシア司令官は涙ながらに感謝の意を表したのであります。美談はこれに留まりません。対馬沖で日本側約100名、ロシア側は5000名以上の将兵が散華した中、啓発されるのであります。この度「日露友好の丘」に立ち、紺碧の海に沈んだ英霊に対し、真心を込めて哀悼を捧げるとともに、先人が最後にみせた「気骨」「武士道」「大和心」を引き継いで祖国日本を覚醒させ、我が国の形を整えて、世界に役割していくことを「武士道立国」を発信するに相応しい対馬の地でお誓いし、英霊の粗辞と致します。

対馬研修旅行を控えて前田事務局長より、日本海海戦の記念碑に演野会長が報恩謝徳の言葉を述べ献華されるので併せて読経せよ、との御下命を頂いた。

私は今回の研修を好機として前日に福岡に赴き、宇佐八幡宮と天守府天満宮に参拝し、それぞれ御前へ日本海海戦を勝利に導いた戦艦「三笠」から命銘した当代最上の沈香木三笠を切り分けて奉納し、慰霊法要の円成を祈願した。

果たせるかな翌日は夜来の風雨も収まり四海晴明、まさに軍神英霊の感応これなるやの好日となった。かくして、記念碑の前に立つた其のとき、四天王寺の和宗前管長・出口順得殿下の御臨席あらせられるのを初めて知った。一介の野僧でしかない私が導師をつとめるなど恐懼千方と思いつつも、御下命を拝しては各位の至誠あふれる祈りに背中を押されるまま、一気呵成に表白を読み上げた。

大意に曰く

本日、扶桑大日本国辺の地に奉祀せらるる日本海海戦の建碑に有史以来大八洲津島の歴々代々々時間わず、昼夜分かち無く城塞烽火に殉難防衛したる諸公

ことには神功皇后はじめすべての武將士卒英霊の降臨を仰いでよく精査せよと宿題を頂いた。

一体全体、深く高い恩義とは何だろつか。道中しきりに考え、そして解答するものに達着した。それは豊砲台跡である。砲塔部は直径七米、深さ十二米もあって岩盤と見まじう程のコンクリートの一大建造物であり、戦後占領軍がこれを爆破しようとしたが出来なかつたに聞か。剥落したコンクリートの隙からは無数の小石も見え、資材搬入には船しかなく竣工までには五年を要したと申せ、今もこの砲台には妖気の迫り来るを感じる。まさに国防への執念、その権化がこの史跡なのである。

執念のあらばこそ信念の生まれるは世の道理であつて「討てし己まん」との最後までの執念をして必ず勝つ信念に結実せしめる道理が、忽然と砲台の中に仁王立ちで出現したように見て取れて全身震憾するのを感じた。

国防への執念あるが故に海より深い大恩であり、執念なるが故に儻々たる大義だと建碑は宣揚して居りますと謹んで小松先生に奉答するものである。

今日において一般国民は元より、その選良たる議員の誰が国防に執念を燃やして続けているだろうか。国民の小さな幸せに能書きを垂れる輩は五万と居ても、国防の重要性を信念を持って語れる御仁はほとんど居ない。ましてシビリアンコントロールを果たすには、国防への執念なくしては全きを得る筈もないのだ。

国防に執念を！

今日わが国が必要としている人士とはかような国民なのである。

改めて必要の防人であられる対馬の陸海空軍自衛官に対し、深甚の敬意を捧げ尚おれ己むことなしと言上する次第である。

対馬研修旅行を控えて前田事務局長より、日本海海戦の記念碑に演野会長が報恩謝徳の言葉を述べ献華されるので併せて読経せよ、との御下命を頂いた。

私は今回の研修を好機として前日に福岡に赴き、宇佐八幡宮と天守府天満宮に参拝し、それぞれ御前へ日本海海戦を勝利に導いた戦艦「三笠」から命銘した当代最上の沈香木三笠を切り分けて奉納し、慰霊法要の円成を祈願した。

果たせるかな翌日は夜来の風雨も収まり四海晴明、まさに軍神英霊の感応これなるやの好日となった。かくして、記念碑の前に立つた其のとき、四天王寺の和宗前管長・出口順得殿下の御臨席あらせられるのを初めて知った。一介の野僧でしかない私が導師をつとめるなど恐懼千方と思いつつも、御下命を拝しては各位の至誠あふれる祈りに背中を押されるまま、一気呵成に表白を読み上げた。

大意に曰く

本日、扶桑大日本国辺の地に奉祀せらるる日本海海戦の建碑に有史以来大八洲津島の歴々代々々時間わず、昼夜分かち無く城塞烽火に殉難防衛したる諸公

ことには神功皇后はじめすべての武將士卒英霊の降臨を仰いでよく精査せよと宿題を頂いた。

一体全体、深く高い恩義とは何だろつか。道中しきりに考え、そして解答するものに達着した。それは豊砲台跡である。砲塔部は直径七米、深さ十二米もあって岩盤と見まじう程のコンクリートの一大建造物であり、戦後占領軍がこれを爆破しようとしたが出来なかつたに聞か。剥落したコンクリートの隙からは無数の小石も見え、資材搬入には船しかなく竣工までには五年を要したと申せ、今もこの砲台には妖気の迫り来るを感じる。まさに国防への執念、その権化がこの史跡なのである。

執念のあらばこそ信念の生まれるは世の道理であつて「討てし己まん」との最後までの執念をして必ず勝つ信念に結実せしめる道理が、忽然と砲台の中に仁王立ちで出現したように見て取れて全身震憾するのを感じた。

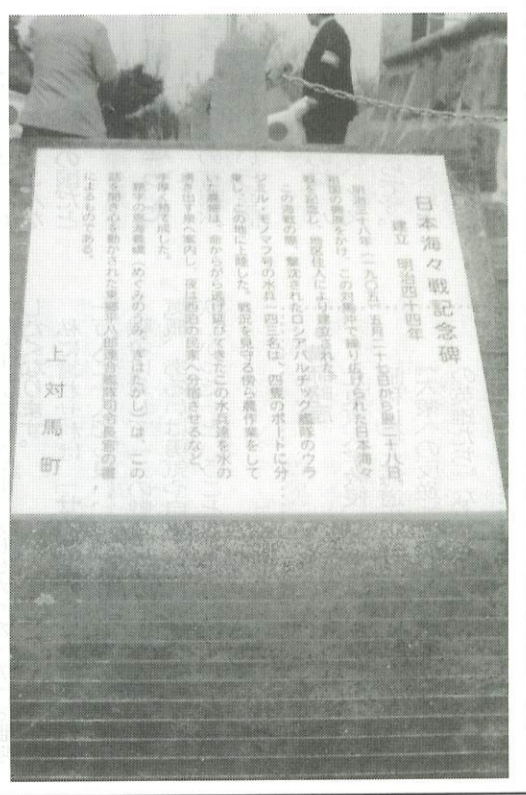
国防への執念あるが故に海より深い大恩であり、執念なるが故に儻々たる大義だと建碑は宣揚して居りますと謹んで小松先生に奉答するものである。

今日において一般国民は元より、その選良たる議員の誰が国防に執念を燃やして続けているだろうか。国民の小さな幸せに能書きを垂れる輩は五万と居ても、国防の重要性を信念を持って語れる御仁はほとんど居ない。ましてシビリアンコントロールを果たすには、国防への執念なくしては全きを得る筈もないのだ。

国防に執念を！

今日わが国が必要としている人士とはかような国民なのである。

改めて必要の防人であられる対馬の陸海空軍自衛官に対し、深甚の敬意を捧げ尚おれ己むことなしと言上する次第である。



上 対馬町



日本海海戦記念碑前にて

国防の最前線 対馬 研修旅行

4月25日・26日



表白を奉読する小西和尚



英霊に哀悼の辞を述べる濱野会長

本日、此地、対馬において国士防衛のために尊き命を捧げられた先人達の御霊に關西防衛を支える会を代表し、謹んで慰霊申し上げます。

英霊に捧ぐ 哀悼の辞

會長 濱野 晃吉

鎌倉時代の文永11年(1281)10月、元の大軍約3万の兵が艦船900余隻に分乗して、この対馬を襲いました。時の守護代「宋資国」は80余騎の兵と共に奮戦し一家全滅しました。この「玉碎」が当時の御家人を振るい起させ、「尊皇・尚武」の坂東武者を統帥した「北条時宗」が「こそ惜しけれ」をかかて國を東へ大難難を撃退したのであります。

宋資国氏の玉碎から630年後の明治37年10月15日、ロシアのバルチック艦隊の38隻は12000の将兵を乗せてバルチック海の対馬沖海戦(日本海海戦)の火蓋が切られました。東郷平八郎司令官が指揮する

は我が国に味方したのであります。明治38年5月27日午後、対馬沖海戦(日本海海戦)の火蓋が切られました。東郷平八郎司令官が指揮する

大日本帝国海軍の砲撃は「百発百中」でバルチック艦隊を完膚なきまでに潰滅させたのであります。ロシア降伏後、東郷長官は重症を負ったロジェストヴェン

だ」と静かに語られ、ロシア司令官は涙ながらに感謝の意を表したのであります。美談はこれに留まりませぬ。対馬沖で日本側約100名、ロシア側は5000名以上の将兵が散華した中、この度「日露友好の丘」に立ち、紺碧の海に沈んだ英霊に対し、真心を込めて哀悼を捧げるとともに、先人が最後にみせた「気骨」「武士道」「大和心」を引き継いで祖国日本を甦らせ、我が国の形を整えて、世界に役割していくことを「武士道立国」を発信するに相応しい対馬の地でお誓いし、英霊の粗辞と致します。

ていることに私共は大いに啓発されるのであります。この度「日露友好の丘」に立ち、紺碧の海に沈んだ英霊に対し、真心を込めて哀悼を捧げるとともに、先人が最後にみせた「気骨」「武士道」「大和心」を引き継いで祖国日本を甦らせ、我が国の形を整えて、世界に役割していくことを「武士道立国」を発信するに相応しい対馬の地でお誓いし、英霊の粗辞と致します。

本日は、扶桑大日本国史の地に奉祀せらるる日本

対馬研修旅行を控える前田事務局長より、日本海海戦の記念碑に濱野会長が報恩謝徳の言葉を述べ、献華されるので併せて読経せよ、との御下命を頂いた。

私は今回の研修を好機として前日に福岡に赴き、宇佐八幡宮と大宰府天満宮に参拝し、それぞれ御神前へ日本海海戦を勝利に導いた戦艦「三笠」から命銘した当代最上の沈香木三笠を切り分けて奉納し、慰霊法要の円成を祈願した。

果たせるかな翌日は夜來の風雨も収まり四海晴明、まさに軍神英霊の感応これなるやの好日となった。かくして、記念碑の前に立つた其のとき、四天王寺の和宗前管長・出口順徳親下の御臨席あらせられるのを初めて知った。一介の野僧でしかない私が導師をつとめるなど恐ろしくと思いつつも、御下命を拝しては各位の至誠あふれる祈りに背中を押されるまま、一気呵成に表白を讀み上げた。

大意に曰く

本日、扶桑大日本国史の地に奉祀せらるる日本

海海戦の建碑に有史以来大八洲津島の歴々代々四時間わず、昼夜分かち無く城塞烽火に殉難防衛したる諸公

ことには

神功皇后はじめすべての武將士卒英霊の降臨を仰いでよく精査せよと宿題を

に旗を立てた高殿を象形した字で、用語としては高志の更になが喬志と云う。

今回の研修の道中を御案内下さった対馬防衛協会事務局長の小松津代志先生から、碑の「恩海義橋」についてよく精査せよと宿題を

て「討てし己まん」との最後までの執念をして必ず勝つの信念に結実せしめる道理が、忽然と砲台の中に仁王立ちで出現したように見て取れて全身震撃するのを覚えた。

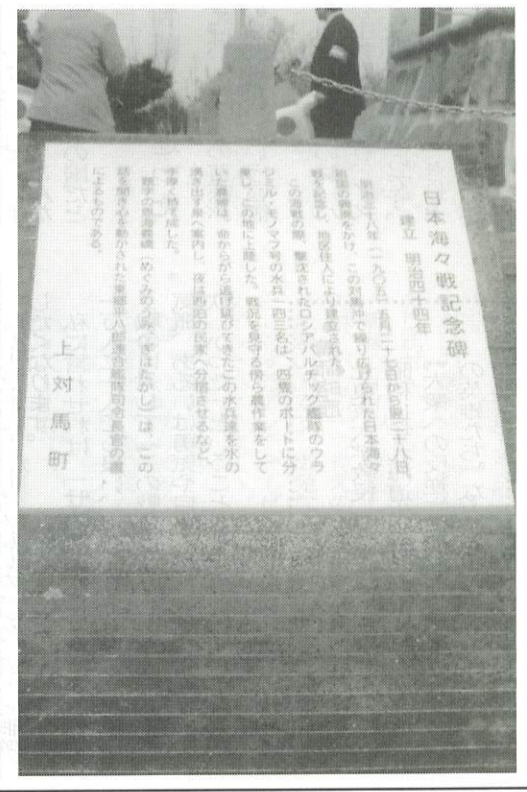
国防への執念あるが故に海より深い大恩であり、執念なるが故に喬々たる大義だと建碑は宣揚して居りますと謹んで小松先生に奉答するものである。

今日にあって一般国民は元より、その優良たる議員の誰が国防に執念を燃やして続けているだろうか。国民の小さな幸せに能書きを垂れる輩は五万と居ても、国防の重要性を信念を持って語れる御仁はほとんど居ない。ましてシリアンコントロールを果たすには、国防への執念なくしては全きを得る筈もないのだ。

国防に執念を！

今日わが国が必要としている人とはよかつた国民なのである。

改めて必要の防人であられる対馬の陸海空軍自衛官に対し、深甚の敬意を捧げ尚おこれいことなと言上する次第である。



妙見宗住職 小西 正純



大陸から見れば、列島は鎖状で自然の壁である。日本から対馬・豊後を見れば、外国に近く、国境の辺にあたる。

関西防衛を支える会の皆様におかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

迎要の地「対馬」は今も変わらなす!

対馬防衛協会事務局長 小松津代志



4月25日、26日には遠路はるばる関西から「対馬研修」にご来島いただき、誠にありがとうございました。その際、大変お世話になりました。対馬防衛協会事務局長の小松津代志と申します。

耕地2%、宅地1%と平地に乏しく、古代から自給自足出来ない島である。また、対馬特有の生物や大陸系のツシマヤマメコなどの生物

「延喜式(えんぎしき)」の7年完成(には陸奥(むつ)出羽(でわ)東北地方(たが)佐渡(さつ)隠岐(おき)対馬(たが)の四国(しこく)を「迎要」と定めている。663年の白村江(はくすむい)の戦(いくさ)後、防人(ぼりゅう)烽火(ひん)を配置(ち)する。この間に金田城(かんだじょう)を築(きず)き、ここに国士(こくし)防衛(ぼ衛)という概念(がい念)ができた。その後、元寇(げんこう)、秀吉(ひでゆき)の朝鮮出兵(しんせん)、日清(にっしやう)日露(にっろ)戦争(せんそう)、先の大戦(せん)など戦争(せんそう)の歴史(れきし)が繰り返(り)され、その度に大きな犠牲(ぎせい)を受けてきた。防人(ぼりゅう)の島(しま)である。

この「対馬が危ない」問題をいち早く取り上げた人がいる。その人は西村真悟(にしむらまご)衆議院議員(しゆぎいん)である。彼は、平成(へいせい)19年(1978)4月(げつ)12日(にち)に「内閣(ないかく)総理大臣(そうりだいじん)安倍晋三(あべしんぞう)」に對し、「国境(こくきやう)の島の防衛(ぼ衛)と振興策(しんきやうさく)に関する質問(しゆもん)主意書(しゆいしよ)を提出(ていしゆ)した。内容は国防(こくぼ)の島の島における土地(ち)所有者(しゆしやうしや)に対する国の規制(こくせい)国境(こくきやう)の島(しま)に対する振興策(しんきやうさく)海上保安庁(かいぜんあんちやう)と陸海空自衛隊(りくかいくうせいゑいたい)の増強(ぞうきやう)対馬(たが)も韓国領土(かんこくりやうど)という言説(ごんせつ)されている。同年(ねん)4月(げつ)20日(にち)には主意書(しゆいしよ)に対する「答弁書(たふべんしよ)」が届(き)いた。その内容(ねいよう)で省略(しやうりやく)する。この主意書(しゆいしよ)を提出(ていしゆ)してから1年後(ごとし)には項(きやう)から項(きやう)まで危険(きけん)したことが

「この「対馬が危ない」問題をいち早く取り上げた人がいる。その人は西村真悟(にしむらまご)衆議院議員(しゆぎいん)である。彼は、平成(へいせい)19年(1978)4月(げつ)12日(にち)に「内閣(ないかく)総理大臣(そうりだいじん)安倍晋三(あべしんぞう)」に對し、「国境(こくきやう)の島の防衛(ぼ衛)と振興策(しんきやう)に関する質問(しゆもん)主意書(しゆいしよ)を提出(ていしゆ)した。内容は国防(こくぼ)の島の島における土地(ち)所有者(しゆしやうしや)に対する国の規制(こくせい)国境(こくきやう)の島(しま)に対する振興策(しんきやうさく)海上保安庁(かいぜんあんちやう)と陸海空自衛隊(りくかいくうせいゑいたい)の増強(ぞうきやう)対馬(たが)も韓国領土(かんこくりやうど)という言説(ごんせつ)されている。同年(ねん)4月(げつ)20日(にち)には主意書(しゆいしよ)に対する「答弁書(たふべんしよ)」が届(き)いた。その内容(ねいよう)で省略(しやうりやく)する。この主意書(しゆいしよ)を提出(ていしゆ)してから1年後(ごとし)には項(きやう)から項(きやう)まで危険(きけん)したことが

「この「対馬が危ない」問題をいち早く取り上げた人がいる。その人は西村真悟(にしむらまご)衆議院議員(しゆぎいん)である。彼は、平成(へいせい)19年(1978)4月(げつ)12日(にち)に「内閣(ないかく)総理大臣(そうりだいじん)安倍晋三(あべしんぞう)」に對し、「国境(こくきやう)の島の防衛(ぼ衛)と振興策(しんきやう)に関する質問(しゆもん)主意書(しゆいしよ)を提出(ていしゆ)した。内容は国防(こくぼ)の島の島における土地(ち)所有者(しゆしやうしや)に対する国の規制(こくせい)国境(こくきやう)の島(しま)に対する振興策(しんきやうさく)海上保安庁(かいぜんあんちやう)と陸海空自衛隊(りくかいくうせいゑいたい)の増強(ぞうきやう)対馬(たが)も韓国領土(かんこくりやうど)という言説(ごんせつ)されている。同年(ねん)4月(げつ)20日(にち)には主意書(しゆいしよ)に対する「答弁書(たふべんしよ)」が届(き)いた。その内容(ねいよう)で省略(しやうりやく)する。この主意書(しゆいしよ)を提出(ていしゆ)してから1年後(ごとし)には項(きやう)から項(きやう)まで危険(きけん)したことが

「この「対馬が危ない」問題をいち早く取り上げた人がいる。その人は西村真悟(にしむらまご)衆議院議員(しゆぎいん)である。彼は、平成(へいせい)19年(1978)4月(げつ)12日(にち)に「内閣(ないかく)総理大臣(そうりだいじん)安倍晋三(あべしんぞう)」に對し、「国境(こくきやう)の島の防衛(ぼ衛)と振興策(しんきやう)に関する質問(しゆもん)主意書(しゆいしよ)を提出(ていしゆ)した。内容は国防(こくぼ)の島の島における土地(ち)所有者(しゆしやうしや)に対する国の規制(こくせい)国境(こくきやう)の島(しま)に対する振興策(しんきやうさく)海上保安庁(かいぜんあんちやう)と陸海空自衛隊(りくかいくうせいゑいたい)の増強(ぞうきやう)対馬(たが)も韓国領土(かんこくりやうど)という言説(ごんせつ)されている。同年(ねん)4月(げつ)20日(にち)には主意書(しゆいしよ)に対する「答弁書(たふべんしよ)」が届(き)いた。その内容(ねいよう)で省略(しやうりやく)する。この主意書(しゆいしよ)を提出(ていしゆ)してから1年後(ごとし)には項(きやう)から項(きやう)まで危険(きけん)したことが

1. 対馬は、九州本土に132km、韓国まで50kmと大陸に近く、良々晴れた日には海峡のかなたに朝鮮半島の山並を望むことができる国境の島である。島の面積は708km²で南北82km、東西18kmの細長く佐渡、奄美大島に次いで全国で3番目。山林が島の90%を占め、

2. 迎要の地 大陸から日本列島を見れば、北海道から沖縄まで鎮状に繋がりがロシア、朝鮮、中国から太平洋への進出を拒むかのように見える。その中心位置が「対馬」である。対馬は海を隔てて、大陸を繋ぐ「国境の辺」であったり、日本海と東シナ海を結ぶ「要」で、海の十字路口である。

2. 迎要の地 大陸から日本列島を見れば、北海道から沖縄まで鎮状に繋がりがロシア、朝鮮、中国から太平洋への進出を拒むかのように見える。その中心位置が「対馬」である。対馬は海を隔てて、大陸を繋ぐ「国境の辺」であったり、日本海と東シナ海を結ぶ「要」で、海の十字路口である。

3. 対馬が危ない 海自基地隣に韓国資本の施設 韓国人観光客が年々増加の一途をたどると色んな問題が生起している。まず、昨年7月、竹島教科書問題に反発した韓国の退役軍人ら21人が厳原において「独島は韓国領土。対馬島も韓国領土」と書いた横断幕を始め、髪の毛や血を撒き散らすなど荒唐無稽な行為を行つた。その他、韓国資本による土地や建物の買収が行われていく。極めつけは、竹敷の海上自衛隊対馬防備隊本部のすぐ隣に韓国企業

韓国領土(かんこくりやうど)という言説(ごんせつ)されている。同年(ねん)4月(げつ)20日(にち)には主意書(しゆいしよ)に対する「答弁書(たふべんしよ)」が届(き)いた。その内容(ねいよう)で省略(しやうりやく)する。この主意書(しゆいしよ)を提出(ていしゆ)してから1年後(ごとし)には項(きやう)から項(きやう)まで危険(きけん)したことが

韓国領土(かんこくりやうど)という言説(ごんせつ)されている。同年(ねん)4月(げつ)20日(にち)には主意書(しゆいしよ)に対する「答弁書(たふべんしよ)」が届(き)いた。その内容(ねいよう)で省略(しやうりやく)する。この主意書(しゆいしよ)を提出(ていしゆ)してから1年後(ごとし)には項(きやう)から項(きやう)まで危険(きけん)したことが

韓国領土(かんこくりやうど)という言説(ごんせつ)されている。同年(ねん)4月(げつ)20日(にち)には主意書(しゆいしよ)に対する「答弁書(たふべんしよ)」が届(き)いた。その内容(ねいよう)で省略(しやうりやく)する。この主意書(しゆいしよ)を提出(ていしゆ)してから1年後(ごとし)には項(きやう)から項(きやう)まで危険(きけん)したことが

韓国領土(かんこくりやうど)という言説(ごんせつ)されている。同年(ねん)4月(げつ)20日(にち)には主意書(しゆいしよ)に対する「答弁書(たふべんしよ)」が届(き)いた。その内容(ねいよう)で省略(しやうりやく)する。この主意書(しゆいしよ)を提出(ていしゆ)してから1年後(ごとし)には項(きやう)から項(きやう)まで危険(きけん)したことが

韓国領土(かんこくりやうど)という言説(ごんせつ)されている。同年(ねん)4月(げつ)20日(にち)には主意書(しゆいしよ)に対する「答弁書(たふべんしよ)」が届(き)いた。その内容(ねいよう)で省略(しやうりやく)する。この主意書(しゆいしよ)を提出(ていしゆ)してから1年後(ごとし)には項(きやう)から項(きやう)まで危険(きけん)したことが

韓国領土(かんこくりやうど)という言説(ごんせつ)されている。同年(ねん)4月(げつ)20日(にち)には主意書(しゆいしよ)に対する「答弁書(たふべんしよ)」が届(き)いた。その内容(ねいよう)で省略(しやうりやく)する。この主意書(しゆいしよ)を提出(ていしゆ)してから1年後(ごとし)には項(きやう)から項(きやう)まで危険(きけん)したことが

2. 迎要の地 大陸から日本列島を見れば、北海道から沖縄まで鎮状に繋がりがロシア、朝鮮、中国から太平洋への進出を拒むかのように見える。その中心位置が「対馬」である。対馬は海を隔てて、大陸を繋ぐ「国境の辺」であったり、日本海と東シナ海を結ぶ「要」で、海の十字路口である。

2. 迎要の地 大陸から日本列島を見れば、北海道から沖縄まで鎮状に繋がりがロシア、朝鮮、中国から太平洋への進出を拒むかのように見える。その中心位置が「対馬」である。対馬は海を隔てて、大陸を繋ぐ「国境の辺」であったり、日本海と東シナ海を結ぶ「要」で、海の十字路口である。

2. 迎要の地 大陸から日本列島を見れば、北海道から沖縄まで鎮状に繋がりがロシア、朝鮮、中国から太平洋への進出を拒むかのように見える。その中心位置が「対馬」である。対馬は海を隔てて、大陸を繋ぐ「国境の辺」であったり、日本海と東シナ海を結ぶ「要」で、海の十字路口である。

2. 迎要の地 大陸から日本列島を見れば、北海道から沖縄まで鎮状に繋がりがロシア、朝鮮、中国から太平洋への進出を拒むかのように見える。その中心位置が「対馬」である。対馬は海を隔てて、大陸を繋ぐ「国境の辺」であったり、日本海と東シナ海を結ぶ「要」で、海の十字路口である。

2. 迎要の地 大陸から日本列島を見れば、北海道から沖縄まで鎮状に繋がりがロシア、朝鮮、中国から太平洋への進出を拒むかのように見える。その中心位置が「対馬」である。対馬は海を隔てて、大陸を繋ぐ「国境の辺」であったり、日本海と東シナ海を結ぶ「要」で、海の十字路口である。

2. 迎要の地 大陸から日本列島を見れば、北海道から沖縄まで鎮状に繋がりがロシア、朝鮮、中国から太平洋への進出を拒むかのように見える。その中心位置が「対馬」である。対馬は海を隔てて、大陸を繋ぐ「国境の辺」であったり、日本海と東シナ海を結ぶ「要」で、海の十字路口である。

2. 迎要の地 大陸から日本列島を見れば、北海道から沖縄まで鎮状に繋がりがロシア、朝鮮、中国から太平洋への進出を拒むかのように見える。その中心位置が「対馬」である。対馬は海を隔てて、大陸を繋ぐ「国境の辺」であったり、日本海と東シナ海を結ぶ「要」で、海の十字路口である。

2. 迎要の地 大陸から日本列島を見れば、北海道から沖縄まで鎮状に繋がりがロシア、朝鮮、中国から太平洋への進出を拒むかのように見える。その中心位置が「対馬」である。対馬は海を隔てて、大陸を繋ぐ「国境の辺」であったり、日本海と東シナ海を結ぶ「要」で、海の十字路口である。

2. 迎要の地 大陸から日本列島を見れば、北海道から沖縄まで鎮状に繋がりがロシア、朝鮮、中国から太平洋への進出を拒むかのように見える。その中心位置が「対馬」である。対馬は海を隔てて、大陸を繋ぐ「国境の辺」であったり、日本海と東シナ海を結ぶ「要」で、海の十字路口である。

2. 迎要の地 大陸から日本列島を見れば、北海道から沖縄まで鎮状に繋がりがロシア、朝鮮、中国から太平洋への進出を拒むかのように見える。その中心位置が「対馬」である。対馬は海を隔てて、大陸を繋ぐ「国境の辺」であったり、日本海と東シナ海を結ぶ「要」で、海の十字路口である。

2. 迎要の地 大陸から日本列島を見れば、北海道から沖縄まで鎮状に繋がりがロシア、朝鮮、中国から太平洋への進出を拒むかのように見える。その中心位置が「対馬」である。対馬は海を隔てて、大陸を繋ぐ「国境の辺」であったり、日本海と東シナ海を結ぶ「要」で、海の十字路口である。

2. 迎要の地 大陸から日本列島を見れば、北海道から沖縄まで鎮状に繋がりがロシア、朝鮮、中国から太平洋への進出を拒むかのように見える。その中心位置が「対馬」である。対馬は海を隔てて、大陸を繋ぐ「国境の辺」であったり、日本海と東シナ海を結ぶ「要」で、海の十字路口である。

2. 迎要の地 大陸から日本列島を見れば、北海道から沖縄まで鎮状に繋がりがロシア、朝鮮、中国から太平洋への進出を拒むかのように見える。その中心位置が「対馬」である。対馬は海を隔てて、大陸を繋ぐ「国境の辺」であったり、日本海と東シナ海を結ぶ「要」で、海の十字路口である。

2. 迎要の地 大陸から日本列島を見れば、北海道から沖縄まで鎮状に繋がりがロシア、朝鮮、中国から太平洋への進出を拒むかのように見える。その中心位置が「対馬」である。対馬は海を隔てて、大陸を繋ぐ「国境の辺」であったり、日本海と東シナ海を結ぶ「要」で、海の十字路口である。

2. 迎要の地 大陸から日本列島を見れば、北海道から沖縄まで鎮状に繋がりがロシア、朝鮮、中国から太平洋への進出を拒むかのように見える。その中心位置が「対馬」である。対馬は海を隔てて、大陸を繋ぐ「国境の辺」であったり、日本海と東シナ海を結ぶ「要」で、海の十字路口である。

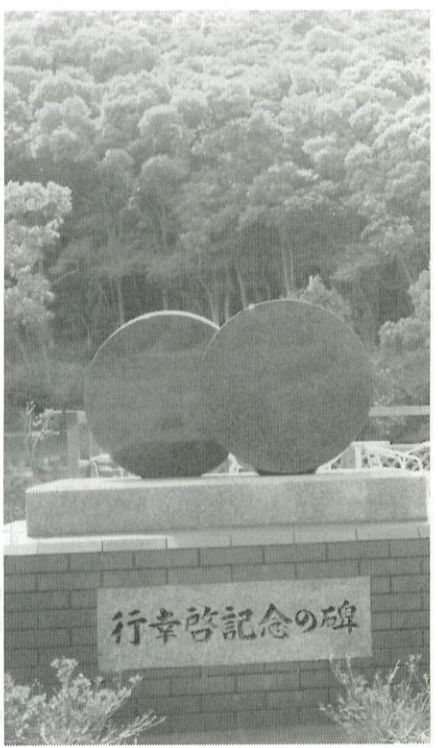
2. 迎要の地 大陸から日本列島を見れば、北海道から沖縄まで鎮状に繋がりがロシア、朝鮮、中国から太平洋への進出を拒むかのように見える。その中心位置が「対馬」である。対馬は海を隔てて、大陸を繋ぐ「国境の辺」であったり、日本海と東シナ海を結ぶ「要」で、海の十字路口である。

2. 迎要の地 大陸から日本列島を見れば、北海道から沖縄まで鎮状に繋がりがロシア、朝鮮、中国から太平洋への進出を拒むかのように見える。その中心位置が「対馬」である。対馬は海を隔てて、大陸を繋ぐ「国境の辺」であったり、日本海と東シナ海を結ぶ「要」で、海の十字路口である。

2. 迎要の地 大陸から日本列島を見れば、北海道から沖縄まで鎮状に繋がりがロシア、朝鮮、中国から太平洋への進出を拒むかのように見える。その中心位置が「対馬」である。対馬は海を隔てて、大陸を繋ぐ「国境の辺」であったり、日本海と東シナ海を結ぶ「要」で、海の十字路口である。

2. 迎要の地 大陸から日本列島を見れば、北海道から沖縄まで鎮状に繋がりがロシア、朝鮮、中国から太平洋への進出を拒むかのように見える。その中心位置が「対馬」である。対馬は海を隔てて、大陸を繋ぐ「国境の辺」であったり、日本海と東シナ海を結ぶ「要」で、海の十字路口である。

2. 迎要の地 大陸から日本列島を見れば、北海道から沖縄まで鎮状に繋がりがロシア、朝鮮、中国から太平洋への進出を拒むかのように見える。その中心位置が「対馬」である。対馬は海を隔てて、大陸を繋ぐ「国境の辺」であったり、日本海と東シナ海を結ぶ「要」で、海の十字路口である。



韓国資本のリゾート地内に建つ碑



豊砲台跡

対馬を旅して

吹田市議会議員 神谷 宗幣

私は青年会議所のメンバーの一人として本年度領土意識醸成(りやうどいしきじやうせい)署名活動(しやうめい)に協力(きやうりやく)しています。この署名活動(しやうめい)は、私達の領土(りやうど)の意識(いしき)の中(なかに)もすっかり根(ね)づいており、本州(ほんしゆう)以上(いじやう)に日(に)本(に)らしい日(に)本(に)文化(ぶんか)が残(のこ)っている地域(ちいき)である、というこ(こと)ろが私の対馬(たが)の第一(だいいち)印象(いんさう)です。そんな島(しま)を従来(じゆんらい)韓(かん)國(こく)の領土(りやうど)であったと主張(しゆうせん)する方々(かたがた)の意見(いせん)が明らか(めいらか)な嘘(うそ)であり、空論(くろん)であるとい(い)うこ(こと)を現地(げんち)を訪(まわ)りて改めて実(じつ)感(かん)を感じ(かん)ておりました。中(なかに)でも対馬(たが)の問題(もんたい)について(いて)は理解(りかい)が薄い(うす)と自覚(じかく)しておりましたので、今年(ことし)2月(に)から周(しゅう)囲(い)の方々(かたがた)に署名(しやうめい)をお願い(ねが)うことになりま(ま)す。頭(あたま)ではある程度(ていど)理解(りかい)してはいるつもりでも、実(じつ)際(さい)にそう(ように)した課(か)題(だい)を抱(かか)え、た地域(ちいき)を訪(まわ)れたこ(こと)はな(な)く、経験(けいけん)に基づ(づ)いた「思い(おも)い」ではなく「知識(ちしき)」で署名活(しやうめい)動(どう)を行(お)っ

また、事前(じきじ)の勉強(べんきやう)で、韓(かん)國(こく)資本(しやうぽん)が島(しま)の土地(ち)を買(か)収(しゆう)しているという問題(もんたい)を知(し)っていました。そして、そこに意識(いしき)を注(こ)意(い)して、自衛隊(せいゑいたい)基地(きち)横(よこ)横(よこ)の参(さん)事(じ)員(いん)が「防人(ぼりゅう)の島(しま)新法(しんぽう)法(ぽう)制定(せいどん)決定(けいぎん)決定(けいぎん)」(離島振興(りしましんきやう)「制定(せいどん)決定(けいぎん)決定(けいぎん)」)の人的(じんてき)的(てき)交流(かうりゆう)の発展(はつぜん)を促(うなが)すことを願(ねが)うことである。

また、事前(じきじ)の勉強(べんきやう)で、韓(かん)國(こく)資本(しやうぽん)が島(しま)の土地(ち)を買(か)収(しゆう)しているという問題(もんたい)を知(し)っていました。そして、そこに意識(いしき)を注(こ)意(い)して、自衛隊(せいゑいたい)基地(きち)横(よこ)横(よこ)の参(さん)事(じ)員(いん)が「防人(ぼりゅう)の島(しま)新法(しんぽう)法(ぽう)制定(せいどん)決定(けいぎん)決定(けいぎん)」(離島振興(りしましんきやう)「制定(せいどん)決定(けいぎん)決定(けいぎん)」)の人的(じんてき)的(てき)交流(かうりゆう)の発展(はつぜん)を促(うなが)すことを願(ねが)うことである。

また、事前(じきじ)の勉強(べんきやう)で、韓(かん)國(こく)資本(しやうぽん)が島(しま)の土地(ち)を買(か)収(しゆう)しているという問題(もんたい)を知(し)っていました。そして、そこに意識(いしき)を注(こ)意(い)して、自衛隊(せいゑいたい)基地(きち)横(よこ)横(よこ)の参(さん)事(じ)員(いん)が「防人(ぼりゅう)の島(しま)新法(しんぽう)法(ぽう)制定(せいどん)決定(けいぎん)決定(けいぎん)」(離島振興(りしましんきやう)「制定(せいどん)決定(けいぎん)決定(けいぎん)」)の人的(じんてき)的(てき)交流(かうりゆう)の発展(はつぜん)を促(うなが)すことを願(ねが)うことである。

また、事前(じきじ)の勉強(べんきやう)で、韓(かん)國(こく)資本(しやうぽん)が島(しま)の土地(ち)を買(か)収(しゆう)しているという問題(もんたい)を知(し)っていました。そして、そこに意識(いしき)を注(こ)意(い)して、自衛隊(せいゑいたい)基地(きち)横(よこ)横(よこ)の参(さん)事(じ)員(いん)が「防人(ぼりゅう)の島(しま)新法(しんぽう)法(ぽう)制定(せいどん)決定(けいぎん)決定(けいぎん)」(離島振興(りしましんきやう)「制定(せいどん)決定(けいぎん)決定(けいぎん)」)の人的(じんてき)的(てき)交流(かうりゆう)の発展(はつぜん)を促(うなが)すことを願(ねが)うことである。

最後にありますが、今回の訪問を通して、対馬のよるな国境(こくきやう)の島(しま)の様(よう)々な問題(もんたい)は、過疎化(こそくか)などに伴(とも)う経済(けいざい)的(てき)な支(し)援(えん)と島(しま)にむく内(うち)側の側(がわ)の人(ひと)・島外(しまがい)の我々(われわれ)日本人(にっぽんじん)の意識(いしき)改革(かいはく)の面(めん)からアプ(ア)ロ(ロ)ーチ(チ)する必要がある(ひつやく)かと痛感(いたんかん)しました。これは単(ただ)なる経済(けいざい)的(てき)な支(し)援(えん)でも、精神論(せいしんろん)に基づく(づ)政治的(せいざいてき)な支(し)援(えん)でも解決(けつごう)の難(がた)しい、我々(われわれ)日本人(にっぽんじん)すべて(ごと)に該(がい)当(とう)する課題(かいたい)です。そう(ように)した課題(かいたい)があるというこ(こと)に多(おほ)くの皆(みな)さんに関心(かんしん)を持(も)つてもうい(い)たい、「これ(こ)れが今(いま)回の訪問(ぼんぽん)を経て(して)私(わたし)が一番(いちばん)伝えたい(たい)こ(こと)であり、そのために自分(おん)に何(なに)ができるか(を)今後(こうご)考(かん)えていきたい(と思)います。新(あたら)しい「気づき」を頂(いただき)げたい(と思)います。当(とう)会の皆様(みな)様の機(き)会の提(てい)供(こう)に感謝(かんしゃ)いた(し)ます。

この「対馬が危ない」問題をいち早く取り上げた人がいる。その人は西村真悟(にしむらまご)衆議院議員(しゆぎいん)である。彼は、平成(へいせい)19年(1978)4月(げつ)12日(にち)に「内閣(ないかく)総理大臣(そうりだいじん)安倍晋三(あべしんぞう)」に對し、「国境(こくきやう)の島の防衛(ぼ衛)と振興策(しんきやう)に関する質問(しゆもん)主意書(しゆいしよ)を提出(ていしゆ)した。内容は国防(こくぼ)の島の島における土地(ち)所有者(しゆしやうしや)に対する国の規制(こくせい)国境(こくきやう)の島(しま)に対する振興策(しんきやうさく)海上保安庁(かいぜんあんちやう)と陸海空自衛隊(りくかいくうせいゑいたい)の増強(ぞうきやう)対馬(たが)も韓国領土(かんこくりやうど)という言説(ごんせつ)されている。同年(ねん)4月(げつ)20日(にち)には主意書(しゆいしよ)に対する「答弁書(たふべんしよ)」が届(き)いた。その内容(ねいよう)で省略(しやうりやく)する。この主意書(しゆいしよ)を提出(ていしゆ)してから1年後(ごとし)には項(きやう)から項(きやう)まで危険(きけん)したことが



●奈良県第2区
(生駒市・生駒郡・郡山市・天理市他)

【略歴】
神戸大学経営学部経営学科卒業(経営数学専攻)。松下幸之助氏が21世紀のリーダーを育成する為に設立した(財)松下政経塾を卒業。平成17年9月より、衆議院議員4期目。

高市 早苗(近畿)



●東京都第10区
(豊島区・練馬区の一部)

【略歴】
平成4年 参議院議員当選
平成5年 衆議院議員当選
平成8年 衆議院議員当選
平成12年 衆議院議員当選
平成14年 自由民主党入党
平成15年 環境大臣 就任
平成15年 衆議院議員当選(自由民主党・比例区)
平成16年 環境大臣 再任

小池 百合子(東京)



●福井県第1区
(福井市・永平寺町他)

【略歴】
出身校 早稲田大学法学部
学位・資格 法学士
前職 弁護士
所属党派 自由民主党(町村派) 1981年3月 - 早稲田大学卒業。
1982年 - 司法試験合格。靖国神社参拝関連訴訟の国側の弁護を手がける。

稲田 朋美(北陸信越)

関西防衛を支える会・特別顧問

6氏の応援よろしく

来たる衆議院 総選挙



●大阪府第17区
(堺市中区・西区・南区)

【略歴】
・京都大学 法学部 卒業
～ 弁護士 ～
・平成5年衆議院初当選
大阪府第17選挙区(堺市) 現在5期目

比例は
改革クラブ

西村 真悟(近畿)



●兵庫県第6区
(伊丹市・宝塚市・川西市)

【略歴】
1981年3月 関西大学 法学部法律学科卒業
中小企業相談所(経営指導員)、企画調査部、総務部
2003年 伊丹市議会議員に初当選
共立株式会社 代表取締役 役に就任
2005年 自民党兵庫県第6区選挙区支部長就任

木挽 司(近畿)



●兵庫県第7区
(西宮市・芦屋市)

【略歴】
当選回数 2回、1942年6月28日生まれ。
兵庫県尼崎市出身。1962年、京都大学法学部に入學。2003年、第43回衆議院議員総選挙に自民党公認で出馬。同じ選挙区には、社会民主党党首の土井たか子・元衆議院議長が強固な地盤を持っていたが破り、初当選を果たした。

大前 繁雄(近畿)

インド洋での海上自衛隊による給油支援活動の期限を平成21年6月17日平成21年1月15日から一年間延長する改正新テロ対策特別法が成立した。

インド洋では、米英仏パキスタンなどの艦艇がテロリストらの海上移動や麻薬武器輸送の監視・摘発を継続して、平成20年2月から6月までの短期間に麻薬30トン余りを押収する実績を挙げている。アフガニスタンの治安回復に直結する程のものでありませんが、テロリストの行動を抑制し、資金源を断つうえで重要な任務であると言えます。

この海上阻止活動は極めて重要で、今回ソマリア沖

ソマリア沖海賊対策 政府の対応を喜ぶ

野村 巖(滋賀県・74歳)

自衛隊の艦船を派遣し、またP3C対潜哨戒機を追加派遣した事は我が国の利益に多大な貢献をしているものです。

現地在航する民間船舶の一部超を日本関連の船舶が占めている、と聞く。この海域では平成20年、日本のタンカーを含めて20隻以上が海賊の被害をうけており、中東に原油の9割りを依存する日本にとって海上交通路(シーレーン)の安全は死活的に重要な問題であります。

国際社会は海賊を取り締まる行動を迅速に実施したが日本は遅きに失した感はないが、その意義は大きいものがあります。自衛



前列中央の制服姿が関防会のマスコットウェーブ平田倫子3曹(3月22日)

御入会の御願い

関西防衛を支える会では平成21年度の会員募集中です
御入会御希望の方は下記口座にお振り込み下されば会員となります

三井住友銀行守口支店
普通口座 1261314
口座名 関西防衛を支える会

郵便振り込み
口座番号 00960-2-137035
口座名 関西防衛を支える会

一般会員 年会費 3000円
維持会員 10000円
法人会員 20000円

* 1口以上何口でも申し受けます。
銀行振り込みの場合は小会まで住所など御連絡下さるようお願いいたします。
(振り込み用紙には住所の記入が無い為、以後のご案内が出来ませんので)。
* 会計年度は4/1～3/31です
(4月末までのお振り込みも新年度とさせていただきます)

のタンカーなど船舶の護衛は当たり前であり、日本の海上自衛隊に恒常的にその任務を与えるべきであります。それには

自国の船を守ることは出来ないう野党を抱える我が国の悲しい現実が切ないのです。二大政党など叫んでいますが、このような対外政策の不一致は一刻も早く解消していただきたいのです。

*その講師・荒谷氏が勤める明治神宮の武道場・至誠館の館長は東大気象道部の部歌を作詞された田中茂穂さんで、昔そのレコードを頂戴し再三聴いた。現代の青年に平成の「青年日本の歌」として広めたい、と思っただけの良歌詞とメロディである。

*西村氏の講演は田母神論文を批判しているように見



二次会で美声を披露する荒谷氏

フオットフラッシュ

編集後記

*第12回定時総会が一時流れた株主総会のようにシヤンヤンと手順通り進行終了した。小なりとは云え会員の皆様から会費を頂いて運営している以上、セレモノとしても必要である。後の防衛講話が楽しみ、と云う人が多いが、今回の講師は陸上自衛隊の退役大佐で特殊作戦の先駆者である。特殊作戦と聞けば血沸き肉踊る映画ランボーのような活動かと思ってしまう、昔風に云えば占領地の宣撫部隊であるのかな。その宣撫の精神は「武士道と大和心」である、と。

死んでたまるか!!

田幸教授(琉球大)開発の特許商品!!
沖縄モズクと北海道産真昆布ガニアシの純粋フコイダンとダブルで配合!!
生活習慣病が気になる方に...

Fucoidan Z
フコイダンゼット

【フコイダンZ】150粒(25~50日分) 25,000円
お試し用30粒入り2,000円とお徳用350粒入り50,000円もあります。

Beauty Health Laboratory
ビー・エイチ・ラボ

〒553-0006 大阪市福島区吉野4-19-10
TEL(06)6462-5820 FAX(06)6462-5824
携帯・PC共通 http://bh-labo.net

送迎車両の運行と管理は 安心・安全の弊社へ!

人員送迎の

- ・乗用車・ワンボックス車
- ・マイクロバス・大型バス

運転請負の専門会社

社団法人 日本自動車運転管理業協会[正会員]
株式会社 **サンワ運行委託**

フリーダイヤル 0120-77-5645
URL http://www.sanwa-drivers.co.jp/

本社 千570-0032 大阪府守口市菊水通2-19-1(菊水第二ビル)
☎06(6993)5645 FAX06(6993)5644
神戸支社 ☎078(652)5645/京都営業所 ☎075(595)5645

えるが、決してそうではない。反面教師として語っているのだから、その真意を汲むべきと思う。19世紀から20世紀にかけて帝国主義の時代は武力が物を云う時代であり、今更何を云っているのか、と云う趣意であろう。現在の国際政治でも畢竟武力が背景にある。我が国が米国のポチと呼ばれるのも独立した防衛力を持つていない、からではないか。その桎梏から抜けるには堂々と憲法に国軍の保持を明記しなければならぬ。

*対馬研修旅行記には啓発されるどころ多々あり。この国境の島・対馬の危機を最初に発信したのは小会特別顧問の西村真悟衆議院議員である。それは対馬防衛協会事務局長の小松氏も記しておられる。総選挙も近い、何とか、この愛国の志士・西村議員の再選を切に願う次第。

*私事ながら編集子の郷里(新)

は伯耆の國。日本海の潮騒を子守歌に育った祖父は少年の日、近くの小山に登り日本海海戦の砲弾による水煙を目撃したと語っていた。曾祖父は男ばかりの4人兄弟の次男に生まれ田圃3反歩ほど置った分家した。文字通りの水飲み百姓である。祖父にとって叔父にあたる3男は他家へ養子に出たが4男は生死不明と云う。この4男は海外雄飛を試みて異郷の地に屍を晒しているかも知れない。父は昭和8年の現役兵で中支、北支比島を転戦し足掛け10年間軍務に服した。激戦の比島から無事に帰還したが従兄弟には戦死者も出ている。明治維新以来、国家勲勳期に生きた肉親の生涯を追ってみたいも近代化に邁進する我が国の苦悩の程が察せられる。それについても「天皇の浴槽」と形容された日本海の現状は嘆かわしい。